

# 国語 第1学年 ぶんをつくろう

## 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある5月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

### この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「この文では誰が何をしているか」を問い、誰が何をするかを組み合わせて文を書き、意味が伝わるか読み直す。主語と述語の文カードの初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

### 学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

| 学習指導要領の項目                | 原文                                                |
|--------------------------|---------------------------------------------------|
| 〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)カ | カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。                         |
| 〔第1学年及び第2学年〕B 書くこと(1)ウ   | ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 |

### 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、誰が何をするかに着目し、文の主語と述語の関係に気付く。思考・判断・表現では、誰が何をするかを組み合わせて文を書き、意味が伝わるか読み直す。交流や試行の前後を比べ、主語と述語の文カードを見直そうとする。

### 評価規準（3観点）

| 知識・技能                                             | 思考・判断・表現                                                  | 主体的に学習に取り組む態度                                       |
|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| ①誰が何をするかに着目し、文の主語と述語の関係に気付いている。<br>（〔知識及び技能〕(1)カ） | ①「書くこと」において、誰が何をするかを組み合わせて文を書き、意味が伝わるか読み直している。<br>（B(1)ウ） | ①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。 |

### 単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

| 次   | 時         | 学習活動                                                                  | 評価規準（評価方法）     |
|-----|-----------|-----------------------------------------------------------------------|----------------|
| 第1次 | 1<br>（本時） | ○誰が何をするかを組み合わせて文を書き、意味が伝わるか読み直す。<br>○この文では誰が何をしているかを考え、最初の答えとその理由を残す。 | 知①・思①（発言・学習記録） |
| 第2次 | 2         | ○友達の説明と比べ、主語と述語の文カードを見直す。<br>○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。           | 思①・態①（見直しの記録）  |

## 本時の案

本時の目標：誰が何をするかを組み合わせて文を書き、意味が伝わるか読み直すことができる。

| 段階          | 学習活動（○主な発問）<br>・予想される児童の反応                                                                                                                                                                                                                                               | 指導上の留意点（◎評価）                                                                                                                                                                                                   |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>（ 分）  | <p>1 身近な経験と既習の言葉を確認め、今日使う教材や資料を準備する。</p> <p>○「この文では誰が何をしているか」</p> <div>【めあて】主語と述語の関係について、自分の考えと理由を表そう。</div> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰がするのかを入れると分かりやすい。</li> <li>・どこを確認めれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。</li> </ul>                            | <p>本時に使う具体例が見える所へ置く。主語と述語が対応しないまま語を並べる姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。</p>                                                                                                                              |
| 展開<br>（ 分）  | <p>2 誰が何をするかを組み合わせて文を書き、意味が伝わるか読み直す。</p> <p>3 書いたものを読み返し、「この文では誰が何をしているか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確認める。</p> <p>4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。</p> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰がするのかを入れると分かりやすい。</li> <li>・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。</li> </ul> | <p>人物と動作のカードを対応させ、文全体を声に出す。知識・技能では、誰が何をするかに着目し、文の主語と述語の関係に気付いている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。</p> <p>◎①誰が何をするかを組み合わせて文を書き、意味が伝わるか読み直している。</p> <p>（B(1)ウ）（初稿・見直した稿・修正理由）</p> |
| まとめ<br>（ 分） | <p>5 主語と述語の文カードを確認め、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。</p> <div>【まとめ】主語と述語を対応させると、誰が何をする文かを確認められる。</div> <p>6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。</p> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。</li> </ul>                              | <p>結論が教師の例と同じかだけで判定しない。この文では誰が何をしているかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。</p> <p>◎知①（主語と述語の文カードと実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）</p>                                                               |

## 板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には主語と述語の関係を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に主語と述語の文カードで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

## つまづきやすい所と手当て

予想する難しさは、主語と述語が対応しないまま語を並べることである。人物と動作のカードを対応させ、文全体を声に出す。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

## プリントの案

### 主語と述語の文カード

「この文では誰が何をしているか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。人物と動作のカードを対応させ、文全体を声に出すための補助欄も用意する。

### 見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）（[https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo\\_tangen\\_1\\_202503.docx](https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_1_202503.docx)）／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>）／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（[https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt\\_kyoiku02-100002607\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf)）／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）（[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326\\_pri\\_kokugo.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)）  
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ



AI三重